

復興交付金事業計画

計画名称 松島町復興交付金事業計画
計画策定主体 宮城県・松島町
計画期間 平成 23 年度～平成 27 年度
計画区域 別紙図面のとおり
計画区域における震災による被害の状況 宮城県松島町は、東日本大震災により震度 6 弱を記録し、その後、津波高 T.P. +2.6m の津波の来襲により、沿岸部の市街地や農地等（約 167 ヘクタール）が浸水するなど、著しい被害を受けた。また、内陸部においても、住宅のほか、学校や福祉施設などの公共施設の損壊、道路の陥没、水道などのライフラインが破損・寸断し、供給が停止する被害を受けた。 この震災による被害は、死者 16 人、重軽傷者 37 人におよび、また、家屋被害は全壊が 219 戸、大規模半壊 349 戸、半壊 1,191 戸、一部損壊は 1,461 戸になるなど、町全体の約 6 割の世帯で被害を受け、過去に例がないほどの著しい被害を受けた。 また、本町は、風光明媚で知られ、平成 22 年には国内外から年間約 360 万人の観光客が訪れるなど、東北地方の主要な観光地である。しかしながら、今回の震災により、瑞巖寺や五大堂等の国宝や重要文化財等にも被害が生じ、平成 23 年 3 月の観光入込客数が対前年比の約 25% まで減少するなど、観光等の本町の主要産業にも大打撃を与えている。 さらに、本町の地場産業である水産業に係る港湾施設、漁港施設及び水産加工施設については、地震及び津波による破損や損傷等の被害を受け、農業についても、塩害や施設の損傷等の著しい被害を受けた。 鉄道については、J R 仙石線が津波被害を受け、本町の高城駅以東が未だ不通となっており、地域住民が生活する上で大きな支障となっている。 また、地震に伴う地盤沈下により、海水が市街地等に流入し、道路の冠水や樹木の枯死が進行している。さらに、大雨時には、地盤沈下に伴う排水不良等により、住宅地における床上・床下浸水が各所で生じるなど、甚大な被害の発生が今後も懸念されている。 特に、沿岸部の①松島地区、②高城・磯崎・本郷地区、③手樽地区では、東日本大震災による津波被害のほか、地盤沈下に伴う排水不良等の被害が発生している。また、内陸部でも④幡谷・根廻地区が地震による家屋被害が、とりわけ甚大となっている。 <u>①松島地区</u> （様式 1 - 1 ①参考資料 P1 を参照。） ・地区の概要 ⇒ 本地区は年間 360 万人が訪れる日本三景として国を代表する景観地の玄関口に位置し、鉄道は J R 仙石線松島海岸駅、道路は沿岸部を国道 45 号が東西に位置した人口集中地区である。特に、沿岸部周辺は、観光施設が集中し多くの観光客で賑わうことから、地域住民及び観光客の安全確保が求められる。

- ・津波被害
 - ⇒ 今次津波の浸水域は様式1-1①参考資料P1のとおり、観光客が集中する沿岸部から背後地の住宅地まで達し、浸水深は2mを超え数多くの建物が被災した。ただし、発災当日は、四半期で最も観光客が少ない期間にあたり、午前中の日帰り観光客が帰還し、また、宿泊客が到着前の時間帯であったこと等から、人的な津波被害の拡大を免れた。
- ・地盤沈下による被害
 - ⇒ 本地区では、最大70cmの地盤が沈下し、排水路より海水が逆流する高潮被害が発生しており、流下能力の低下により計画降雨強度以下でも水害が頻発する。特に、水害等による災害が頻発すれば、本町の主要産業である観光業に多大な影響を及ぼすことは必至であり、住民や関係団体から早急な対応が求められている。
- ・建物被害状況
 - ⇒ 本地区では、津波と地震による家屋被害が全世帯の約7割に達し、この内、全壊、大規模半壊、半壊の大きな被害が6割である。
- ・避難路、避難生活
 - ⇒ 指定避難所は、浸水により利用できない避難所もあり避難所が不足した。発災時の被災観光客は1200人と、前述のとおり年間で最も少ない時期であったことから既存の避難所の不足をホテル、寺院等で対応できたが、繁忙期の観光客に対応する避難所・避難地を配置する必要がある。国を代表する日本三景の景勝地としては、観光客の「安全性の確保」は必要不可欠な条件である。また、高台までの避難路は、狭小な幅員箇所があり、発災時に倒壊した建築物で円滑な避難に支障をきたした。

②高城・磯崎・本郷地区（様式1-1①参考資料P1を参照）

- ・地区の概要
 - ⇒ 松島町の約6割の人口が本地域の市街地に集中している。駅は、東北本線松島駅、愛宕駅、仙石線高城町駅があり、道路は高城川沿線を国道45号が南北に縦断、人口が集中する住宅地内は狭隘な道路が多い。
- ・津波被害
 - ⇒ 今次津波は、様式1-1①参考資料P1のとおり、磯崎漁港及び沿岸部に浸水被害が発生した。なお、津波シミュレーションにおけるL2津波では、市街地まで浸水区域に達し、人口集中地区であるため被害の拡大が想定される。
- ・地盤沈下による被害
 - ⇒ 本地区では、最大140cmの地盤が沈下しており、流下能力の低下により計画降雨強度以下でも水害が頻発する。特に、市街地は人口集中地区であるため、被害が大きく早急な対応が必要である。
- ・建物被害状況
 - ⇒ 本地区では、津波と地震による家屋被害が全世帯の5割に達し、この内、全壊、大規模半壊、半壊の大きな被害が4割を超えた。また、高台までの避難路は、狭小な幅員箇所があり、発災時に倒壊した建築物で避難に支障をきたした。
- ・避難路、避難生活
 - ⇒ 発災時は、指定避難所の収容能力が不足し、利用できなかった住民や観光客が数多く発生した。

市街地は、人口集中地区であるため、避難所を配置できる未利用地が少なく、復興計画では北側の運動公園を広域避難拠点として収容能力の向上を図る計画である。

広域避難拠点へのアクセスは、高城川沿川の国道 45 号は津波の影響をうけるため、高台で安全に移動できる避難路として根廻磯崎線の早期整備が急務である。

また、市街地は、高台の避難所まで一定距離以上離れる区域が存在し、本町の高い高齢化率（60 歳以上人口の割合 37%）を考慮すると徒歩による移動は困難であり、車両による移動を検討する必要がある。しかし、市街地は前述のとおり狭隘な道路が多く避難路としての機能整備が急がれる。

③手樽地区（様式 1 - 1 ①参考資料 P1 を参照）

- ・ 地区の概要
 - ⇒ 本地区は沿岸部に漁港集落等が点在し、鉄道は J R 仙石線陸前富山駅、道路は主要地方道奥松島・松島公園線が東西に走り、これと各集落を結ぶアクセスは狭隘な道路が多い。
- ・ 津波被害
 - ⇒ 今次津波は、様式 1 - 1 ①参考資料 P 1 のとおり、集落及び農地の多くが浸水域となる甚大な被害を受けた。特に J R 仙石線陸前富山駅周辺は、堤防が破堤し、多くの家屋が倒壊等の被害を受けたほか、地区内の J R 仙石線は現在も不通となっている。
- ・ 地盤沈下による被害
 - ⇒ 本地区では、最大 150 c m の地盤が沈下し、宅地内まで海水が逆流・侵入するなど、日常生活に大きな影響を与えている。さらに、流下能力の低下により計画降雨強度以下でも水害が頻発するため、住民からは早急な対応を求められている。
- ・ 建物被害状況
 - ⇒ 本地区では、津波と地震による家屋被害がほぼ全世帯に達し、この内、全壊、大規模半壊、半壊の大きな被害が約 8 割を超えている。
- ・ 避難路、避難生活
 - ⇒ 指定避難所では、浸水により利用できなかった避難所もあり、指定避難所の避難者収容能力が不足した。沿岸部には、集落が点在しており奥松島・松島公園線までのアクセスを確保する必要がある。

④幡谷・根廻地区（様式 1 - 1 ①参考資料 P1 を参照）

- ・ 地区の概要
 - ⇒ 本地区は松島町の北部地域で最も人口が多い大規模既存集落であり、鉄道は東北本線品井沼駅を有し、北部周辺地域の拠点区域として位置づけられている。
- ・ 建物被害状況
 - ⇒ 本地区では、地震による家屋被害が約 7 割に達し、この内、全壊、大規模半壊、半壊の大きな被害が 6 割を超えている。また、道路についても被害が発生している。
- ・ 避難路、避難生活
 - ⇒ 発災時は、指定避難所の収容能力が不足し、利用できなかった住民や観光客等が数多く発生した。また、今次津波災害において高齢者、障がい者、妊産婦、乳幼児等に対するケアができなかったため、根廻地区の保健福祉センターを福祉避難所として機能強化を図る。

震災の被害からの復興に関する目標

東日本大震災による津波や地震、地盤沈下等の被害状況下から、住民の安全・安心はもとより、日本三景松島の自覚と責任を持ち、観光客の安全・安心の確保を図るために、復興交付金事業により、都市基盤の復興、生活の復興、観光・産業の復興を目指す。

計画コンセプト

「復興」「創造」そして「貢献」

～東北・松島の美しさと安全を継承し発信する復興のまちづくり～

目標1 安全・安心の復興と創造的なまちづくり（都市基盤の復興）

松島湾に面し、これからも美しい自然や豊かな海の恵みとともに発展を目指す本町は、より安全・安心な都市基盤の整備、強化などを推進する。

◆指標：住民の防災対策に関する満足度を高める。

（平成21年 アンケート調査「津波や河川氾濫など風水害への対策」の満足度：42%）

目標2 町民の命と生活を守る防災まちづくり（生活の復興）

被災者の生活再建の支援を図るとともに、安全で安心して暮らし続けることができる防災まちづくりを推進する。

◆指標：住民の居留意向の割合を高める。

（平成23年 全世帯アンケートにおける町内居留意向割合：83%）

目標3 宮城、東北を牽引する観光と地域産業によるまちづくり（観光・産業の復興）

農林業、漁業、水産加工業と観光業とが連携し、新たな地域産業と雇用の創出を図るとともに、必要となる基盤施設の整備や集約化を進め、経営基盤の強化を図ります。

◆指標：観光入込客数を平成22年（震災以前）より増加させる。

（平成22年観光入込客数：3,568,710人）

対象事業の詳細 様式1-2、1-3、1-4、1-5

基金設置の有無・基金設置の時期

有（基金設置主体：宮城県・松島町） / 無（ ）

（基金設置の時期：平成24年3月）

復興ビジョン、復興計画、復興プラン等

別紙参照（松島町震災復興計画）、<http://www.town.matsushima.miyagi.jp/index.cfm/6,8963,70.html>

宮城県：宮城県震災復興計画 <http://www.pref.miyagi.jp/seisaku/sinsaihukkou/keikaku/index.htm>